

6/28^土
11:00 ~
開催場所
湘南医療大学
薬学部棟

がんの痛み治療と麻薬性鎮痛薬

薬学では薬を造ることが一つの夢です。がんの痛みを抑えるためにモルヒネのような麻薬性鎮痛薬を用いますが、副作用として便秘が現れます。私はこの便秘を未然に防ぐ薬の開発に取り組み、製薬会社と共にナルデメジンという薬を開発し、現在広く使用されています。一方、薬物依存の研究は学生時代からライフワークとしており、米国薬物依存研究所にも留学しました。今回は痛み治療に医療用麻薬を適切に使えば依存にならないことをご紹介します。



薬学部 学部長
鈴木 勉 教授

自己紹介
星薬科大学を卒業、星薬科大学薬品毒性学教授を経て、2021年度より本学薬学部長として着任。世界保健機構（WHO）薬物依存専門委員会委員を2002年から15年勤め、2013年に日本私立薬科大学協会より教育賞を受賞。博士号（薬学）を取得。

7/26^土
10:00 ~
開催場所
湘南医療大学
保健医療学部棟

認知症の方の感じている世界を知る

地域で生活していられる方の中には、認知症を患っている方は少なくありません。少しの手助けで私たちと変わらない生活を維持できます。認知症の方への専門的な看護スキルを持っている専門職の活躍により、認知症の方の生活を支える環境は大きく変わってきています。その方を感じている世界を周囲の私たちが知ることは難しいのですが、本講座では、認知症の方の感じている世界を少し感じ、一緒に考えていきたいと思えます。看護師を志望している中学生・高校生の方も是非ご参加ください。



看護学科
佐々木 千佳 准教授

自己紹介
看護学校を卒業し、健診センター、大病院、公立病院に勤務。長く高齢者看護に関わってきた。大学院にて博士号（健康科学）を取得後、現在は高齢者の転倒防止のための靴の研究や高齢者の睡眠と生体リズムについて研究している。

8/30^土
10:00 ~
開催場所
湘南医療大学
薬学部棟

薬学は何を学ぶ？ ～薬剤師の社会貢献～

2006年から開始された薬学部6年制教育は、もうすぐ20年の節目を迎えます。薬学生は6年間様々なことを学び、多様な社会のニーズに応える素養を身につけて卒業していきますが、薬剤師の職能はまだまだ一般に知られていない部分が多くあります。本講座では、薬学生がどのようなことを学んでいるかをご紹介しますことで、薬剤師の社会貢献について考えます。



薬学部
市丸 嘉 講師

自己紹介
日本大学薬学部卒業後、同大学院薬学研究科を修了し、博士号（薬学）を取得。薬学教育が6年制課程に移行した初年度の卒業生であり、専門は医薬品化学。本学薬学部開設時より現職に就き、臨床と研究の双方に活躍する薬剤師育成に尽力している。

8/30^土
14:00 ~
開催場所
湘南医療大学
保健医療学部棟

朝食と健康の関係

朝食の欠食は、20代が最も多くなっていますが、朝食を抜くと疲れやすい、太りやすい、集中力が続かない、生活習慣病の引き金のひとつになっているとも指摘されています。朝食の大切さを皆さんと一緒に考えるとともに生活習慣を予防し健やかな身体作りの方法をお話します。社会人の方だけでなく、人々の健康を願いつつ支援ができる看護師を目指している中学生・高校生の方もぜひご参加ください。



看護学科
伊藤 ふみ子 准教授

自己紹介
聖隷クリストファー大学卒業後、看護師として勤務。その後、大学院にて修士号（看護学）を取得。現在も静岡県西部糖尿病研究会の世話人として多職種と連携しながら、糖尿病を中心とする慢性疾患をもつ人々のセルフケアについて研究している。

11/1^土
10:00 ~
開催場所
湘南医療大学
保健医療学部棟

子供と地域をつなぐ居場所づくり ～手探りの中で見えた課題～

2018年より東京都A市で小・中学生を対象に居場所づくりを展開してきました。大学生や地域のボランティアの協力のもと、学習支援や自由活動スペースの運営に取り組んできましたが、その中で、子供同士のトラブルや多様な背景を持つ子供たちとの関わり難しさ、子供のニーズとのずれに直面することもありました。それでも子供たちの成長と社会性の育ちを実感しています。本講座では、手探りの中で見えてきた地域社会の課題と子供と地域をつなぐ意義について、会場の皆さんと考えていきます。



リハビリテーション学科
作業療法学専攻
池田 晋平 教授

自己紹介
作業療法士としての臨床と他大学での勤務を経て、2025年度より本学に着任。子供から高齢者まで多世代の健康づくりや、孤独・貧困の社会問題に関心を持ち、地域に根差した調査・実践に取り組む。博士号（老年学）を取得。

11/2^日
13:00 ~
開催場所
湘南医療大学
薬学部棟

若者の薬物乱用問題最前線 ～お薬のオーバードーズについて考える～

若年層において市販薬の乱用および過量服薬（オーバードーズ：overdose：OD）の問題が顕在化しており、大きな社会問題となっています。市販薬などの「おくすり」は用法用量を守ることが大切です。本講座では、「なぜ、おくすりは使い方を守る必要があるのか?」、また、市販薬に含まれる成分から過量服用の危険性についても解説します。オーバードーズの問題に対してどのように対応していくか、一緒に考えましょう。



薬学部
船田 正彦 教授

自己紹介
星薬科大学卒業後、国立精神・神経医療研究センター室長を経て、2023年に本学薬学部に着任。一貫して「薬物依存に関する研究」に従事。基礎研究による成果を基に、薬物規制行政に提案も行っている。博士号（薬学）を取得。

12/20^土
10:00 ~
開催場所
湘南医療大学
保健医療学部棟

災害 × リハビリテーション ～理学療法士が“命と暮らし”を支える現場～

近年の災害では、避難所での生活機能の低下や健康課題が顕在化しており、命を守る支援に加え、「暮らしを支える支援」が重要視されています。本講座では、理学療法士が災害時に果たす役割として、避難所や福祉避難所での要配慮者支援、個別避難計画の策定支援、地域との連携による防災体制など、災害リハビリテーションの実践的な取り組みについて、具体的な例を交えて紹介します。



リハビリテーション学科
理学療法学専攻
下田 栄次 講師

自己紹介
理学療法士として災害リハや避難所支援、福祉避難所支援に係る個別避難計画の策定に関する実践と研究に従事。要配慮者支援を中心に、医療・福祉・行政との連携による地域防災体制の構築に尽力している。博士号（危機管理学）を取得。